

指定ごみ袋の素材・種類について

1. 前回の審議会での意見について

バイオマスプラスチックの素材として、市内で生産される作物を利用してはどうかとの意見がありました。現在は、バイオマスプラスチックの原料にはトウモロコシやサトウキビなどが多く使われておりそれらの作物を市内で確保することは困難な状況です。また、竹を利用できないかとの意見もありましたが、現状では竹を原料としてバイオプラスチックを製造した例は見当たりません。

2. バイオマスプラスチックの特徴と意義

バイオマスプラスチックは、焼却処分した際もカーボンニュートラルにより大気中の二酸化炭素濃度の上昇を抑えるという特徴があります。また、原料として主に植物などの再生可能な有機資源を使用することにより、枯渇が危惧され地球温暖化の一因とされている石油にできるだけ頼らずに持続的な社会の構築に貢献します。

3. 民間企業でのバイオマスプラスチックの使用

環境意識の高まりに応じて、民間企業においてもレジ袋や商品などにバイオマスプラスチックを使用しているケースが増えています。

○イオングループ

2013 年からレジ袋の無料配布を中止し、バイオマスプラスチックを配合した有料レジ袋に移行した

○アルク

全店舗でバイオプラスチック 25%配合した有料レジ袋を使用している

○資生堂

2011 年から一部のシャンプーとコンディショナーの容器にバイオマスプラスチックを使用

○タリーズコーヒー

今年の 10 月から店舗で使用するストローをバイオマスプラスチックを 25%使用したものに切り替え

4. 手数料への価格転嫁について

指定袋にバイオプラスチックを使用した場合について、すでに実施している自治体はコスト増加分を袋の価格に転嫁していないケースがほとんどであることから、宇部市でも市民理解を得るためには価格転嫁は行わないことが必要と考えられます。